

しんぱん
しどうようもんしゅう
新版 指導要文集

だいさんしゅう

しゅくめいてんかん

第三章 宿命轉換

しゅくめいてんかん

宿命轉換

ほとけ めつごいっせんごひやくよねん ちんしん もう ひと いのち ちめい
仏の滅後一千五百余年、陳鍼と申す人ありき。命は知命

もう ごじゅうねん さだ そうち てんだいだいし
にありと申して、五十年に定まつて候いしが、天台大師

あ じゅうごねん いのち の ろくじゅうご
に値つて十五年の命を延べて六十五までおわしき。その

うえ ふきようぼさつ じゆみよう ま 説
上、不軽菩薩は、「さらに寿命を増す」ととかれて、

ほけきよう ぎよう じようごう 延 たま
法華經を行じて定業をのべ給いき。

(130 可延定業書 かえんじようごうしよ)

しゆくめいてんかん
宿命転換 1307 ページー17行)

ほけきよう　じしや　きようしゆしやくそん　みこ
法華經の持者は教主釈尊の御子なれば、いかでか梵天・
たいしやく　にちがつ　しゆしよう　ちゆうやちようぼ　まも　たま
帝釈・日月・衆星も昼夜朝暮に守らせ給わざるべきや。
やく　とし　さいなん　はら　ひほう　ほけきよう　す
厄の年、災難を払わん秘法には、法華經に過ぎず。たのも
しきかな、たのもしきかな。

155 おおたさえもんのじようごへんじ
太田左衛門尉御返事

しゆくめいてんかん
宿命転換 1375 ページ1行

とうねん だいやく
当年の大厄をば、
にちれん まか たま しやか たほう じつぼうふんじん
日蓮に任せ給え。 釈迦・多宝・十方分身
しよぶつ ほけきよう おんやくそく じつ ふじつ はか
の諸仏の法華経の御約束の実・不実は、これにて量るべき
なり。

(155 太田左衛門尉御返事

おおたさえもんのじようごへんじ

しゆくめいてんかん
宿命転換

1375 ページ7行

さんじゆうさん

厄

てん

さんじゆうさん

幸

たも

三十三のやくは、転じて三十三のさいわいとならせ給う

しちなん

すなわ

めつ

しちふく

すなわ

しょう

べし。「七難は即ち滅し、七福は即ち生ず」とは、これ

とし

若

ふく

重

そうろう

なり。年はわこうなり、福はかさなり候べし。

しじょうきんごどののにようぼうごへんじ

(198 四条金吾殿女房御返事

しゆくめいてんかん

宿命転換 1543 ページ 14 行

さんじゆうさん

やく

さんじゆうさん

ふく

三十三の厄はかえって三十三の福となるであります。

しちなんそくめつ

しちふくそくしょう

とし

わかえ

「七難即滅・七福即生」というのはこのことです。年は若返

ふく かさ

り、福は重なることでしょう。

ひと いのち さんかいこうし 免

人の命は山海空市まぬかれがたきことと定めて候えど

さだ そつら

じょうぎょう

よ てん

きょうもん

も、また「定業もまた能く転ず」の経文もあり。

(205 四条金吾殿御返事 (智人弘法の事))

しじょうきんごどのごへんじ

ちじんぐほう

こと

しゆくめいてんかん

宿命転換 1563 ページ 1 行

きようおうごぜん

経王御前には、わざわいも転じて幸いとなるべし。

禍

てん

さいわ

(225 経王殿御返事

きようおうどのごへんじ

しゆくめいてんかん

宿命轉換

1633

ページー9行)

きようおうごぜん

いま

びょうき

ふこう

てん

こうふく

経王御前の、今の病気という不幸も、転じて幸福にかわていく

ことはまちがいありません。

灸治きゆうじをしてやまいをいやし、針治しんじにて人をひとなすがごと
し。当時とうじはなげくとも、後は悦よろこびなり。

398 異体同心事いたいどうしんじ

宿命轉換しゆくめいてんかん
2055 ページ 11 行